

Universal NEWS 04

ユニバーサルニュース

滋賀県中小企業家同友会会報誌 [ユニバーサルニュース]
VOL.04 2017年6月発行

2019年秋障害者問題全国交流会 滋賀県での開催まであと2年



代表取締役社長 川合充彦さん



今回は株式会社川合製作所の川合充彦さんにインタビューしました。川合製作所では障害がある方が現在6名働いておられ、2009年度には「共に生き共に働く」を実践する会社」として滋賀でいちばん大切にしたい会社にも認定されておられます。障害者を取り巻く諸問題を、特別な会社の特別な経営者だけの話ではなく、より多くの経営者が考える機会とすべくお話をうかがいました。

「障害者雇用」と聞くと正直ハードルが高いと感じています。

そう感じるのは当然です。川合製作所でもそうでした。しかし、街を歩いていると障害のある人もみかけ、その中には川合製作所で働ける人もいるのではないかと感じてきました。そうして縁あつて入社した社員には最大限の力を発揮してもらいたい。そしてできる限り長く働いてもらいたい。これができる環境を作ることが経営者の仕事だと思えます。様々な人と関わっていくことで自分の成長につながっていくように、

経営者も雇用を通じて自分の学びにつながっています。

障害者雇用を考えているけれど、自社でどう進めていけばよいか悩んでいる方も多くいます。

まずは地域と共にある中小企業のひとつとして、できることから始めてみるのはいかがでしょうか。地域の課題に目を向ければきっとなにかできることがあります。

また雇用には会社の土台をしっかりさせることが大切です。障害があるとかないとかではなく、みんながおたがいさまの気持ちをもつて切磋琢磨する風土であることが大事。とはいえ、気負うとしんどさにもつながります。「ええあんばい運動」とかどうでしょう(笑) 誰しも気分がいいときもあれば悪いときもあります。いい意味での良い加減とか適当とか…そんな意識が自然な会社であれば雇用にもつながるのではないのでしょうか。

まず自分ができることから、できることに気付くことからですね。ありがとうございました。(松下)

ユニバーサル委員会 活動・トピックス

第19回 障害者問題全国交流会in広島(福山)のご案内

メインテーマ:誰もが安心して暮らせ、夢の持てる地域づくりを
開催地スローガン:もっと知ってもらいたいタイ(鯛)!
知ることから始まるんじゃけえ!
～広島(福山)にきたら目からウロコが!～

開催概要

- 日程 2017年10月19日(木)13時開会～20日(金)12時閉会
- 会場 福山ニューキャッスルホテル
- 規模 500名(各同友会300名・広島同友会200名)
- 分科会(仮)以下の6つを予定しています。
 - 第1分科会 人を生かす経営の歩みから障害者問題の今後を展望する(運動課題)
 - 第2分科会 人材戦略としての障害者雇用、障害者の社会進出・雇用・労働(企業実践)
 - 第3分科会 新しい仕事づくり～障害者の暮らしに寄り添って(企業実践)
 - 第4分科会 児童養護施設への適職探索支援のその後
 - 見学分科会 「福山支部と福山北特支の連携事業」(福山支部のバスツアー①)
 - 見学分科会 「私たち元気に働いています～支援学校卒業生の職場訪問」(福山支部のバスツアー②)
- 参加費 20,000円(交通と宿泊は別途)予定

※2019年秋に滋賀で開催する、第20回障害者問題全国交流会の直前大会です。人を生かす経営の神髄を障害者問題から学び、その総実践と、一社が一人の障害や働き辛さを抱える人と関わる運動を広げるために、今から参加のご予定を、宜しく願っています。(詳細ご案内は後日)



キラメキ レイクマイスター

今回は表面でも掲載しています株式会社川合製作所の桐畑夏子さんにお話をうかがいました。

お仕事について教えてください。

部品を集めたり、あとはなんていうかこう(作業手順を真似る手つき)したり。

お勤めになってどのくらいですか?

長いと聞いています。20年くらいですか?

そうそう。そのくらい。あ、でもどうだったかな?(後日うかがったところ37年!川合社長の少し先輩!)

お仕事はしんどいこともあると思います。楽しいことも多いですか。

しんどいね。でも楽しい。休憩中にみんなと話をしたり。



桐畑さんのオンとオフ。オフの時は気さくに対応いただきましたが、仕事中は声を掛けることをためらう程に一所懸命でした。

株式会社川合製作所 石部工場 湖南市東寺1丁目6-28

支援の現場から～働き・暮らし応援センター～

みなさん「働き・暮らし応援センター」はご存じでしょうか。障害のある人の「働くこと」と「暮らすこと」の両面をサポートする機関として、本人や家族、企業からの相談に対応しています。企業向けには障害のある人の雇用前の検討段階からの相談から、雇用後の定着までをサポートしています。

滋賀県内には圏域ごとに7カ所あります。障害がある人の「働くこと」のお悩み、ご相談はぜひお近くの働き・暮らし応援センターまでご連絡ください。くわしくはインターネットで「働き・暮らし応援センター」でも検索ください。

圏域	名称・愛称	住所	電話番号
大津	おおつ働き・暮らし応援センター「Hatch(はっち)」	大津市京町3丁目5番12号森田ビル5F	077-522-5142
湖南	湖南地域働き・暮らし応援センター「りらく」	守山市梅田町2-1セルパ201号室	077-583-5979
甲賀	甲賀地域働き・暮らし応援センター	甲賀市水口町水口6200番地 甲賀合同庁舎 本館1階	0748-63-5830
東近江	東近江圏域 働き・暮らし応援センター「Tekito-(テキトー)」	近江八幡市上田町1288-18 2F	0748-36-1299
湖東	働き・暮らしセンター	彦根市西今町87-16 NaSu8-103	0749-21-2245
湖北	湖北地域しょうがい者働き・暮らし応援センター「ほっとステーション」	長浜市小堀町32-3 ながはまウェルセンター内	0749-64-5130
湖西	湖西地域働き・暮らし応援センター	高島市今津町住吉2丁目11-2	0740-22-3876



ユニバーサルニュース Universal NEWS

2017. June
VOL.04 2017年6月発行

発行所 ● 滋賀県中小企業家同友会
発行責任者 / ユニバーサル委員会 委員長 田井勝実
編集責任者 / 小島滋之 城貴志 岩泉匡洋

〒525-0059 草津市野路8丁目13-1 KE草津ビル1階
TEL.077-561-5333 FAX.077-561-5334
E-mail: jimu@shiga.doyu.jp URL http://www.shiga.doyu.jp

滋賀県中小企業家同友会
**2019年
 障害者問題全国交流会
 in 滋賀**
第2回 プレ学習会

とき **2017年3月2日(木)**
 ところ **フェリエ南草津**

同友会が障がい者問題に取り組みつな
 ~その歴史と理念から
 人をいかに経営の実践を学ぶ~

『2019年 障害者問題全国交流会 in 滋賀』開催に向けたプレ勉強会をフェリエ南草津にて行いました。中小企業家同友会全国協議会の専務幹事を務める松井清充氏にお越しいただき、同友会が障がい者問題に取り組む理由を全国各地の事例を用いてお話しいただきました。



だけの方を募っております。

**厳しい日本の
 経済状況**

私たち中小企業家同友会会員は厳しい経済状況のなか、日々会社を守るために切磋琢磨しておりますが、日本の経済には具体的に以下のような現状がみられると言います。

農業人口の高齢化が進み、あと3年で半数以上が70歳を超えると考えられる。資源が減り、あと10年でウランや石油は底を尽きる。100円均一が増え、それまで

販売していた商品が売れなくなつた。

スマートフォンが普及するにつれてカラオケ店が閉店した。等、資源や人口の変化・時代の変化に伴っていろいろなことに影響が出てきています。世界では企業数は増えているのですが、日本では開業数は減少し廃業数は増加しているため企業数はどんどん減少して

います。そして経済が低迷していることにより正規雇用には就けない人が増え、非正規雇用では結婚することが難しくなつたり子どもの教育ができない等の理由で出生率も減少

**変化する社会のなかで
 進化する企業**

しており、日本の人口は減少傾向にあります。この悪循環のなかこれから企業はどう生き残っていくべきなのか。生き残る方法や困難を乗り越える策を考えられる企業だけが残っていくと考えられています。

これから先20年、高齢者の数は確実に増え続けます。また、現在10歳前後の子どもの寿命は100歳にもなると言われていきます。そのため



松井 清充氏

65歳で定年してからの人生が長く、年金だけでは生活していけないので、高齢者の働く場も必要となつてきます。よって65歳以上をターゲットとした事業を考えることや、65歳以上の方が働ける場を考え、自社で取り組んでいく企業は成長するということでした。孤独死が増加するなか、高齢者マンシヨンの管理人を高齢者が担当し、住人の話し相手となる仕事や、65歳以上の人のみを集めた企業を創り、高齢者が使用しやすい商品を開発する仕事等、高齢者だからこそできる仕事のアイデアを出し、そうした事業を積極的に取り入れていくことが大事だと考えられます。



中小企業は地域に優しい企業であり、人をいかに企業を創り、人が生きる地域を創っていく必要があります。人に合わせて仕事を創る時代です。高齢者も障がいのある人も、健常者と同じで得意とすることは持っているのです。その人の個性を生かして働ける場を提供することが必要だということです。様々なハンディキャップのある人がみな働ける環境を創っていくことが、我々同友会の使命です。

グループ討論

**障がい者を取り巻く
 課題をどう位置づけるか**

Aさん 周囲に障がい者がいない人は障がいに関する知識がないので理解ができず、距離を感じてしまいます。私たち経営者は健常者の従業員でもこの人は褒めて伸びるタイプなのか、それとも叱ることが効くのか、と見極めをすることがあります。それと同様でその人と接し障がいを理解すれば、それもただの個性であることがわかり、どのように接するべきなのかから別扱いするのではなく、まず関わりを持つことが、障がい者雇用に繋がるのではないのでしょうか。

Bさん そうですね、ま



ずはハードルを下げて関わりを持つことが大切ですね。しかしどこで出合えるかわかりませんよね。

Cさん 私の会社では、最初は作業所等に仕事をお願いし、間接的に障がいのある方に仕事をしていただいていた。その関係で障がい者が通う学校とも接点ができ、現在働いていた女性も紹介していただきました。作業所等だったら連絡を取りやすいですね。

**多様な人材をいかに
 条件と環境を、
 わが社でどう取り組むか**

Bさん 障がいのある人と共に働くためには障がいに対する経営者の理解はもちろん、社員が理解をすることが大切だと感じています。その人には他の人が敵わなような能力があつたりするので、その多様な能力をお互いに認め合うことに努めるべきだと思います。

Cさん 認め合うことは大切ですね。私の知り合いには、ストレスの発散方法がわからず溜め込みすぎて、自分でも感情の高ぶりを抑えることができず興奮状態になる人がいます。日頃の鬱憤などを吐き出し息抜きをするために話を聞いたり、プライベートな時間も一緒に過ごしたり話しやすい環境をつくることも必要だと思います。



Aさん ストレスを溜め込むというのでも健常者でも同じですね。やはりその人を深く理解することで。私はつい、可愛そう、助けてあげないと、思つてしまいがちですが、しっかり任せることが大切だと思つています。

Cさん そうですね。できること、できないことを見分け、適材適所を見つけてあげることが大切ですね。やっぱりまず、知るということが大事だということです。